

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0195700117), 法人名 (株式会社 メディケアサービス北海道), 事業所名 (グループホームはるか(さくら)), 所在地 (岩見沢市8条東6丁目1番地1), 自己評価作成日 (令和3年3月5日), 評価結果市町村受理日 (令和3年4月7日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosyoCd=0195700117-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年3月25日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と職員が笑顔で楽しく暮らす幸せを感じることができる温かい家を目指しています。利用者様との日常生活を大切にしたいと外出する機会を多く設けています。ゴミ捨てやホーム周辺のゴミ拾い、歩いて近くのお店に買い物に行ったり、掃除や食事、おやつ作り等今できている事を少しでも長く続けていけるような支援をしています。そのためホームで掲げている介護理念に基づき職員が寄り添い、見守る介護、職員一人一人が資質の向上の為、研修会や講習会には積極的に参加しています。職員の中には日舞や三線を得意とし経験を活かして利用者様と楽しむ事も行っています。コロナ禍で外出ができない中ホーム内でのいちご狩りを実施し利用者様の皆様喜ばれていました。少しでもご家族様と面会ができるよう、時間を決めテラスや玄関ベンチで会える機会を設けたりもしました。健康管理の部分では利用者様が元気に暮らせる様、近隣の岩見沢メディカルモール内の各クリニックや同じ法人のひばい駅前薬局との医療連携も固り安心して生活を送れています。また、同じ法人ではサ高住の明日家の社との交流もあり、今年度はサ高住にお住いの方に畑を教わりながら一緒に作物を育てていき地域との関わる機会が少しずつ増えてきています。そして、非常災害時に備えて電源自立型空調を設置していることで空調・照明・通信機器は継続使用可能となっているので、緊急避難先としても利用可能となります。水素水も導入し利用者様の健康管理も行っています。また、今年度は看取りも実施しました。往診や訪問看護との連携、職員の看取りについての学習会、亡くなった後にカンファレンスを行い振り返りも実施しました。ご家族様・ご本人様の希望に沿い、ご自宅に帰って親戚の方々に見守られながら最期を迎えられた方、ホームで最期を迎えられた方々です。今後ご家族様・ご本人様が望む最期を迎えられるよう取り組んでいきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内中心部の住宅地に建てられており、近々に学校やコンビニがあり、ほぼ同一敷地に系列のデイサービスやサービス付高齢者住宅も隣接し、メディカルモールとして単科病院が複合的に揃っており、全面的な医療が保障され、利用者や家族、介護職員に至るまで安心できる体制が整っている。開設から6年目を迎える事業所は介護理念「利用者」に寄り添い、見守り、世代間交流や地域組織・機関の交流を深め、職員の資質向上に努める」を掲げ、利用者」に寄り添い、見守る介護に取り組んでいる。当事業所の最大の優れた点は、介護保険法による目的のある介護の実践を挙げたい。すべてのサービスが機能しているグループホームでは、介護目標が日常生活に埋没しがちであるが、当事業所では具体的な短期目標を日誌に落とし込むだけではなく、日々点検チェック表を用いて進捗状況を把握しており、モニタリングの際もそのチェック表を全職員が実績として確認しながら可否を検討している。まさに介護目標に導かれた日々の生活であり、計画性のある介護の実践として、また若き介護職員の介護計画に対する指針、道標として高く評価したい。また医師との関わりが密であり、急変時、緊急時の連携、情報交換が行われる様に対策を講じるなど、終末期においても適切な支援の実施に向け協力体制が整備され、家族は安心して利用者を託すことができ、非常災害時においても電源自立型空調を設置し、空調・照明・通信機器は継続使用可能であり、緊急避難先としても安心できる体制で臨んでいる。高い理念と培った技術、安全な設備による「グループホームはるか」の今後に大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff performance metrics.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、ユニットの目標をホーム内の見やすい場所に掲示してあります。地域の中でその人らしい安心した暮らしが出来る様支援に努めています。	介護理念「利用者に寄り添い、見守り、世代間交流や地域組織・機関の交流を深め、職員の資質向上に努める」を事業所内に掲示し、利用者や家族に示し、またユニットごとの目標を定め支援に臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でしたが、地域のサ高住の方に畑を教わりホームの利用者様と一緒に作物を育てて収穫と日常的に交流しています。	開設後6年目を迎えるが、身近な幼稚園児やサ高住の住民と触れ合う場を設定したり、また地区のお祭りや事業所の夏祭りでは住民と利用者・職員が相互に参加して挨拶を交わすなど、着実に進行している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の方々にはできませんでしたが、事業所見学等で「こういった施設は初めてでよくわからなくて・・・」という来訪者の方が多かったので認知症の症状等も踏まえて不安を取り除けるよう対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はコロナ禍で事業所内で行いました。また、利用者様に参加して頂いたりしています。	運営推進会議は家族・地域包括支援センター、幼稚園等、関係する参加者を得て2ヶ月ごとに定例開催している。入居状況や介護度、活動内容等々の運営状況資料を開示して課題等を説明し、参会者の意見・意向等を運営に活かしている。	会議は多様な参加者で構成され、議事報告も克明であり、称賛される内容と思われる。今後は関係者や関係機関とともに全利用者家族宅にも議事録を送付し、開かれた事業所としてサービス向上に努めるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍でしたが、運営推進会議録やホームのおたよりを市役所や地域包括へ届けています。また、施設の空き状況等各居宅事業所等への連絡も行いました。	法の解釈や疑問点、制度の変更、介護保険の申請、更新や区分変更の相談等で行政窓口へ赴いており、介護保険課の担当とは親密な関係を持続している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームで資料を作成したり、現実に行っているケアを題材にし不適切なケアから拘束に繋がらないよう職員全員で考え意見を出し合い、今後に活かすようなケアに取り組んでいます。	拘束防止マニュアルを常備し、研修を定期的に行い、会議や申し送りで具体事例を職員間で検証している。また身体拘束等廃止検討委員会は3ヶ月に1度開催し、身体拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を3か月に1回、内部研修を3回、外部研修が出来なかった分オンデマンド配信の参加を1回行いました。全職員に報告・確認意見交換なども行い常に学び、虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されている利用者様もおり、新人職員には都度制度の説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、契約書に基づき説明を行い、分かりやすいよう見本等用意しながら理解・納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様は日々の生活の中で、ご家族様は訪問時や電話連絡時等でご意見・ご要望を伺うよう努めています。	お便り「はるかのおたより」を毎月発行し、利用者の生活を知らせ、また来訪時等で意見や苦情を受け付けている。また外部評価機関を通じてサービス満足度のアンケートも実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やミーティング、業務日報、管理者がフロアに入った際に職員の意見や提案を聞き、またはリーダーが管理者へ報告し業務やケアに活かすようにしています。	定例会議で介護に関わる意見や提案を受け、運営上に反映するとともに、毎月1度は個人面談を実施し、個々の資質向上に活かすとともに、客観的な業務評価の資料としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を評価し、向上心に繋がるような声掛けを心掛けています。また、各ユニットの状況に合わせた人員配置等を心掛け職員の精神的負担の軽減に繋がるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やリーダーは職員一人一人の力量を見極め、課題を見つけそれを内部研修として行ったり、日常的に職員一人一人の意見を大事にし考える力を身に付ける様トレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所居宅やデイ・サ高住との情報の共有や研修案内のお知らせ、各施設での取り組み等意見交換しサービスの質の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	入居前より情報収集、面談を行った際にはご本人様の意向を伺うよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたりご家族様のご要望、これまでの経過、現在困っている事等お聞きし話し合いを行っています。メールや電話対応等も行っていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入居申し込みの際これまでの経過等も伺っています。必要時に応じて他サービスの説明も行い、ご本人様、ご家族様が困らないよう、選択肢が広がるよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を意識し利用者様のできる部分料理や掃除等役割を担いながら一部苦手な部分を職員やまた別の利用者様がフォローし支え合うようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話があった時は必ず近況をお伝えしています。コロナ禍でしたが、暖かい日はテラスや玄関先ベンチで時間を決めての面会も実施しました。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出を控えているが、手紙や電話のやり取りを行っています。	家族や友人、来訪者が来やすい雰囲気作りに心がけ、また住んでいた地域やお気に入り店などに出かけるなど、事業所の都合で関係が途切れたりしないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の挨拶やお誕生日には職員・利用者様全員でお祝い、利用者様と職員間で多くのコミュニケーションが図れるようチーム分けでミニ運動会の実施しています。また、利用者様は役割を持ち、職員は声掛けの工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後も必要なサービスが受けられるよう、ご家族様とご本人様が困らないよう経過をフォローしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を大切にし会話の中から希望を伺い、困難な場合はご家族様と検討意向の把握に努め、ケアプランに反映しています。	日々生活を支える中から、好きな事や嫌な事を把握して、本人本位の生活が送れるように取り組んでおり、家族からの聞き取りや職歴、住んでいた地域を考慮し職員で検討しながら、介護に臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をご家族様に伺ったり、以前利用していたサービスの担当者からも話を伺ったりします。また、ご本人様との会話から生活様子を伺ったりします。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりを大切に、職員が気づいたこと得た情報等は必ず介護記録用紙に記載、引継ぎを行い情報の共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の利用者様の変化を見落とさず介護記録に記載し情報の共有の徹底。リーダーを中心にケアプランの見直しを行い職員と意見交換ケアプランに反映しています。	介護計画に基づいて行われるサービスは、全領域について毎日チェック表を用いて記録し、介護目標の進捗度を把握している。また病気や心の変化などの把握も可能であるため、現状に即した介護計画の実践となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に生活の様子、日々気づいたこと、ご本人様が話した事等細かく記載。それに対し実践し結果も職員間で情報を共有。ケアの統一を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様、主治医、訪問看護等と連携し、ご本人様の状態に合わせて往診を利用、訪問看護の回数を増やす等しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サ高住の利用者様に野菜の作り方を教わり一緒に畑作りをし地域との交流を図っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から通われていた病院を継続できるよう支援しています。また、ホームでの利用者様の様子が分かるよう健康管理記録や利用者様のバイタル表等もとに受診同行した職員は主治医にお伝えしています。	隣接して精神内科、歯科、薬局等専門のメディカルモールが形成されており、自由選択が可能な状態にある。個々の通院も職員が支援している。訪問看護も月2回あり、健康管理も万全な体制である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護利用日には、利用者様チェック表や健康管理記録をもとに気になる事や現在の状態などを伝え、受診につなげたりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は対象となる方はいませんでしたが、入院した場合はご本人様へ面会に行き病棟看護師やソーシャルワーカーに話を聞いたり状態把握に努めます。(コロナ禍では電話の対応)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について入居時にご家族様の意向を確認し、状態変化あれば訪問時や電話でご家族にお伝えし、重度化にならないよう日々ケアを行っています。	契約時に重度化の指針を書面で説明し、事業所の方針に同意を得ている。看取りを望まれれば、最終面まで寄り添い、医療的な必要性が生じた場合は医師と家族と3者で話し合い、最善の方向となるよう検討している。昨年度は3件の看取り介護を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアル等用いて確認しています。また、利用者様の日々の状態変化に合わせて職員には助言・指導を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の日中と夜間想定消防訓練を行っています。また、停電時には自家発電機能も整備し、サ高住との協力体制を築いている。	年に2回の避難訓練は夜間想定を含め、消防署の指導により実施している。備蓄類も毎年点検しており、また自家発電も用意して不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に合わせた声掛け、職員同士は造語やイニシャル等用いて会話しています。	接遇が介護の基本であることを理解し、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行い、またイニシャルを用いるなど尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお話したい事柄や思いを焦らせる事なくゆっくり時間をかけて傾聴する事を心掛けています。迷いのある時はいくつか提案し利用者様が選べるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意思を大切に自室で過ごされる方、リビングで過ごされる方希望を伺いながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の方が来訪されご本人の希望の髪型、またはご家族様の希望を伺い伝えています。お化粧を毎日される方や入浴時に自ら洋服を選んでもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作った野菜と一緒に収穫し料理しています。メニューのリクエストやバイキング、季節を感じられる食事やおやつを提供しています。	美味しく食欲に繋がる献立を考え、職員の手作り料理を提供している。誕生日のケーキやパンバイキング、おやつ作り、行事での特別食も工夫し、外食も取り入れるなど、食形態も利用者に合わせて調理し、口から食べる事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量を個人でまとめて一覧にして把握しています。体重も管理し、低栄養等ならないよう高カロリーゼリーの提供、ご本人様に合った食事形態(ミキサー食)の提供も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアで利用者様の口腔状態を確認しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が多い時間帯を介護記録で情報を共有し声掛けや確認を多くしています。失敗を減らすことで安心して自立した排泄を行えるよう支援しています。	排泄はトイレで行うことに心がけ、一人ひとりの特性を理解・共有し、礼節に富んだ声掛けや誘導になるよう努め、自然な無理のない排泄支援になるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整、起床時に牛乳、腸内環境を整える為、ヨーグルト、果物等提供しています。ホーム内歩行運動、腹部マッサージ等も個別に行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否などあれば曜日を変更、利用者様のその時の気分に合わせます。色々な入浴剤を用意し選んでもらって入浴されています。	お風呂はお湯を毎日浴槽に満たし、いつでもだれでも入れるように準備している。希望を伺い、ゆっくりと語らいながら、また入浴剤も活用して楽しいお風呂になるよう、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時音楽等のリラクゼーションの利用、ベッドメイキングをこまめに行い、常に清潔な場所での安眠を促し、一人一人の体調に合わせて安楽な姿勢で休める様努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間での薬の内容・変更、特記事項等共有し誤薬防止、服薬支援を行っています。服薬する際は2名で薬の確認を行って、服薬期間中の状態変化等記録に記載把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体で行うレクリエーションや少人数、個別で行うアクティビティ等一人一人の性格や対人関係も考え楽しめる様配慮しています。季節ごとの行事、畑や花壇等役割も活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出行事が減ってしまい、車で近くの公園に散歩、室内でのいちご狩り、お菓子狩り、初詣等工夫を凝らした行事を実施しました。	その日の天候やその人の体調にもよるが、夏場は敷地内の菜園に顔をだしたり、近所を散策したりと閉じこもらないように努めている。墓参り等の個人的な要望には家族の協力を得ながら支援している。外出困難な場合は、事業所内でのいちご狩りも実施し、創意工夫の支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出する機会が減ったので、お金での支払い等金銭面での支援は減っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はもちろん季節ごとに年賀状作成、ご家族様とやりとりが継続できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様に季節に合わせた装飾品を作ったり、トイレの場所やカレンダー等分かりやすく工夫しています。また、室温や採光管理を心掛けています。	事業所内は床暖房で、利用者が快適に過ごせる環境を整えている。スロープ付きテラスや車椅子対応の洗面台、シャワー付きトイレの設置など、安心、安全に配慮し自立を促す工夫が窺える。リビングには利用者と共に作った季節の飾りつけや笑顔で写った行事写真、職員写真などが掲示され、会話も弾み、団欒の場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース、自室等皆様に自由に過ごされています。また、利用者様同士居室を行き来し談話されたり、ご夫婦やご兄弟で過ごす時間や場所を工夫したりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全の為防災カーテンやカーペットの使用、また、使い慣れた家具等を配置し、ご家族様と相談しながら居心地の良い空間を作っています。	クローゼット、電動ベットが備えられた居室に、家族と相談の上、筆筒、椅子、テーブル、テレビなど設え、安心して過ごせる環境を整えている。趣味のレース編みの道具や手紙を書くための筆記用具なども身近に用意して、その人らしく暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送って頂くためにできる事、利用者様の解る事を理解し、利用者様の行動を見守り、声掛けする支援を行っています。		